

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171400348	
法人名	医療法人社団もりもと	
事業所名	GHともさん家(ともさん家) まとめ	
所在地	東伯郡琴浦町逢東1213-1	
自己評価作成日	平成29年12月12日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 未来
所在地	鳥取県倉吉市東仲町2571番地
訪問調査日	平成29年12月21日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

身体を整えるケアとプライドを大切にしたケアを基本とし、その方に合った支援を考え、方針の「ん？」と気付きを大切にし、色々な事を確認しながら、職員間の連携をはかり、入居者の安全で穏やかな生活を目指している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・鳥取県グループホーム協会の研修会や、著名な教授を招いて当法人「認知症ケア実践塾」を開催するなど、独自の取り組みが現在まで継続している。法人研修も充実している。琴浦町内のグループホームで「連絡会」を作り、定期会を行っている。GH協会主催の「中部地区ネットワークづくり研修会」に参加し、他GHとのネットワークづくりに努めている。  
 ・今年度は利用者一人ひとりが「雪が降るまでにやりたいこと」を聞き取りフロアに掲示し、達成できるよう努めている。終末期にある利用者が、最期までその人らしく穏やかな生活が送れるよう、医療職や保護者との話し合いを重ね看取りのできる環境を整えている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のよう 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない		

## 自己評価および外部評価結果

### ★努力している点

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1 (1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、方針をフロア内に掲げており、毎朝、職員、入居者で唱和、共有し、実践へと繋げている。BS法で理念、方針を掘り下げ、内容を深め話し合った。	基本理念と、それを元に職員で検討した方針をフロアに掲げている。毎朝、申し送りのあと、利用者と共に唱和し、日々の意識を高めている。	
2 (2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の時のみの繋がりになっており、日常的には交流がない。	地域の祭りや催し物等に参加したり、法人内の文化祭に地域住民を招くなどし、交流を図っている。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献は出来ていないが、運営推進会議時、家族、区長、民生委員、行政の方に実践報告の中で伝えている。今後、地域の方にお茶を飲みに来て頂き、色々伝える事ができたら良いと思っている。1/29に運推でサポートー養成講座開催予定		
4 (3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、民生委員、区長、家族の方から良い意見がもらえ、それを活かす努力をしている。	運営推進会議には、役場職員、民生委員、区長、家族代表の参加があり、利用者の様子やサービス状況、研修等の報告が行われている。また、運営推進委員の意見や要望を聞き、サービス向上に活かしている。	
5 (4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から密な連絡はとれていないが、運営推進会議の時に伝え、相談事等はTELをしたりする。	琴浦町役場健康福祉課より運営推進会議への出席があり、協力関係ができている。 ★琴浦町役場を会場として、町内のグループホーム連絡会を開催し、連携している。	
6 (5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを月曜日、朝、申し送り時に輪読し、理解に努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	契約書に「身体の不拘束」を明記し、身体拘束をしないケアに努めている。やむを得ず身体拘束を行わなければならない状況になった時は、「緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書」により家族の同意を得、「経過観察・再検討記録」に記録している。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ポスターを貼って啓発したり注意し合ったりしている。院内外共、虐待の研修会があまりない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明し、質問、意見を頂きながら、理解を得て、サインを頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会時、話し合いの場をもうけ、思いを聞いている。家族アンケートを年1回実施しており、日常的に聞くようにしている。	年1回家族アンケートを行い、要望や不満等を把握し、運営に活かしている。グループホーム家族会を年2回行い、職員と家族で話し合いの時間を設けるなど、交流の機会となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時、カンファレンス、個人面談で意見を聞く。 日常的にも話し易い環境を作っている。	職員は、日常的に意見交換しやすい関係にあり、日々の申し送り時に随時話し合う時間が持てている。申し送りノートを使って、全職員が情報を共有している。必要があれば、管理者と職員で個人面談を行い、思いを聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的に声掛けを行い、必要があれば個人面談を行うなどし、職場環境条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修への参加を積極的に促し職員を育てる努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互研修の参加。 町GH連絡会への参加。GHネットワーク作り研修会に参加し、質の向上に努めている。		

自己 外 部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入前にケアマネや以前利用されていた事業所からの情報で把握するが本人から不安や要望は聞く事ができない。入院中面会し不安な気持ちは受け止めるようにしている。初期は関わりを多く持ち、信頼関係を築き日々の会話から思いを聞き出すようにしている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前、契約時には十分に話を聞き、気持ちを受け止める。 入居直後はなるべく度々来訪頂き、要望がないかたずねたり、近況を伝えながら関係づくりに努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、話を良く聞き状況を確認する。 他の選択(施設)もある事など、丁寧に説明し、落ち着いて、必要な支援を見極められるようにする。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割を持って頂き、感謝したり、認めたり、頼つたりし、労いの気持ちを伝える。日常の会話、ふれ合いを通して、共に暮らす者との関係を築いている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回の機関誌で様子を伝える。来訪時には共に過ごす時間を大切にできるように配慮し、時には食事や水分介助に関わっていただいている。病院受診は家族の協力を得ている。年末の家族会では、日常の様子をスライドショーで見て頂き、元気な様子を伝える事で、家族の絆を深めてもらう。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と帰宅したり、馴染みの方が来訪された時には、ゆっくり過ごしてもらうよう配慮する。葬儀、法事に参加された方もある。	家族や親せきは勿論、利用者の近所の人や勤め先の人など、昔なじみの関係者の面会が時々あり、関係は続いている。また、希望があれば近くの美容室から美容師が来訪し、散髪する事もある。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う者同士が一緒にお茶を飲んだり話したりできる穏やかな環境となるよう入居者の様子をよく観察し、その時の心身の状態に合わせ、関わり合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も施設外で家族と会った時など会話を持つようにし、近況を聞いたり、勞つたりする。お茶のボランティアで来て下さったり、GHIに寄って下さったりする。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望を聞き、壁に貼り実現に努めている。日々の行動や表情から思いをくみ取るようにする。	日々の意思確認は利用者に寄り添いながら、意志表示の難しい人は表情等で汲み取るよう努めている。 ★今年度は利用者一人ひとりから「雪が降るまでにやりたいこと」を聞き取り、フロアに掲示し、達成できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、CM、利用サービス事業所等から、情報を提供してもらうとともに日常の会話で、本人、家族から聞き取る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェック、一日の食事や水分の摂り方、量、発語や会話、表情、日々の生活状態から少しの変化、気づきを見落とさず現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	新しく出てくるニーズには家人来訪時に伝え意見を聞く。職員は毎日の申し送り時に変化を共有し現状に即したプランへ変更していく。	介護計画の変更・修正時には、家族へカンファレンスの参加を呼びかけている。参加が難しい家族に対しては、面会時や電話で説明と同意を得るよう努めている。職員間の情報共有は、毎朝の申し送りで行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に一日の状態を記録、変化、ケアの変更があった時は、申し送りノートにも記入し、職員は必ずノートを確認しサインして確実に共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設する医院や事業所内にある他施設と連携をとりながら、本人や家族の変化に伴うニーズに合わせ支援している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天気の良い日は外へ散歩に出る、地域の祭りや買い物等への支援を行っている。		
30 (11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	異常の早期発見に努め、日常の様子など家族、医師へ情報提供をこまめに行うようにしている。その際、家人の思いをしっかり傾聴するようにしている。	同法人の医院が隣接しており連携がスムーズであり、急変時の治療は安心できる。家族が県外の場合、病院等の受診の際には職員の付き添いも可能である。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の気付き変化を、よく観察し異常があれば昼夜かわらず看護師へ報告、相談している。記録に残している。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、サマリー情報の提供を行っている。また利用者の元へ様子を伺いに行っている。その際、看護師から現状の情報を得るようしている。早期退院に向けて、連携を行っている。		
33 (12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病変やレベル低下がみられる際は、本人の思いを聞きまた家人や医院へこまめに現状を報告し、支援内容を伝え、記録に残している。医師と家人の話し合いを行ってもらい、終末の方針を話し合う。管理者も同席し、家人の思い、今後の方針を把握する。	現在も1名の終末期対応の利用者がいる。 ★本人や家族の意向を踏まえ、医師や他職種を交えて方針を話し合い、最期までその人らしく穏やかな生活が送れるよう努めている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	利用者の急変時は、医院へすぐに連絡。対応の訓練は年に2回受けている。今年度は来年に3H講習と救命対応の研修会予定あり。 手順マニュアルがある。		
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は、年2回行っているが、地域の方の参加は近年ない。 地震、水害時の訓練は今後予定している。 避難場所はフロアの目立つ場所に表示してある。	災害時の備蓄(3日分)を備えている。火災訓練は法人全体で年に2回実施している。グループホームは2階に位置するため、1階への避難には毎回課題が残る。職員の連絡網を作り、被災時の協力体制は整えている。	安全な場所へ避難誘導する方法について検討し、訓練を重ねることを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重した接し方や声掛けをし接遇に気を付けているが、失礼な言動になることも時としてあるので注意しあっている。	職員は、一人ひとりを尊重した接し方や声掛けに努めている。職員同士、互いの言動も確認し合うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関係を築き会話の中で、本人の思いを聞き出す様に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせケアする様に心掛けている。入居者への対応を優先する様にしているが、希望に添った支援が皆に出来ているわけではない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔にいられる様心掛けている。行事の時にもその人らしくオシャレが出来る様、心掛けている。受診時に化粧をされる方もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は給食課に依頼している。 利用者と一緒に食事を摂り、進まない方への声掛けや介助をする。夕食の汁は、出来る方と一緒に作る様にしている。	法人の給食課で、管理栄養士がメニューを作っている。一人ひとりにあった食事形態で、好みに配慮して提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が一人一人の状態や好みに合わせて提供している。水分は出来る限り好みを聞き提供している。あまり進まない方には声掛けと介助も行う、ゼリーも活用する。食事、水分量のチェックをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人で出来る方へは歯磨きの声掛けと確認。介助が必要な方は介助し口腔内の清潔を保つ。舌苔がない様心掛け、炎症等にも気を付ける。胃ろうの方は、注入前に口腔ケアをする。		

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に合った声掛けをし誘導している。加齢により失敗し、不安になられる方には安心される声掛けする。 私費の排泄用品の使用を減らす努力をしている。	排泄パターンの把握に努め、さりげない声掛け・トイレ案内を行っている。トイレには利用者の体形に合った高さの便座や手すりがあり、自立を促した支援に配慮している。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が精神的に影響する事を職員が理解している。カスピ海ヨーグルト、牛乳、ゼリー、センナ茶など摂取し、バランスの良い食事を提供し、日々運動を取り入れている。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間や曜日は希望通り出来ていない。入浴出来なかった時は、曜日変更している。足浴も実施している。体調の悪い方は、清拭や陰部洗浄などで対応している。	体調などを見ながら、週に2回入浴している。浴室の温度にも気を付け、一人ひとりが気持ちよく入浴できるよう努めている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝をしたい方はして頂いている。拘縮のある方にはパットを使用し楽な姿勢になるように配慮し、褥瘡予防にも気を付けています。天気の良い日、布団を干し、シーツ交換は月1回だが汚れに気を付け交換する。温度、湿度の管理をしている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が一人一人の内服薬の効果、副作用を確認。症状の変化時はその都度主治医に報告し見直している。名前のWチェックをし、飲み込みの確認をしている。臨時薬が処方された時は、病状を隨時主治医に報告する。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気の良い日はドライブ、散歩に出掛け、月1回のボランティアのお茶会、年1回の文化祭に参加し楽しむ。人生歴で得意な事を把握し能力に合わせ役割をして頂く。誕生会を皆で祝う。常に笑いがあるよう心掛けている。		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそった支援が中々出来ない。 天気の良い日は、ドライブ、散歩に出掛けている。回転寿司の希望があり、実現へと向けてる。	天候や入居者の体調を考慮しながら、ドライブや散歩に出かけている。利用者の具体的な希望を聞き取り、一つずつ実現している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つ事がない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりは出来ていない。自ら、電話をしてほしいと言われる方はないが、かかってきたり、かけたりした時にかわって話して頂く。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場では、温度、湿度の管理や音量の調節を行い、四季を感じて頂ける様、花を飾ったり、装飾等と一緒にに行っている。太陽光の調節をレースのカーテンでしたり、鏡の反射がある時は、ロールカーテンを鏡にかけたりする。職員の声・所作にも注意する。	毎朝ハイターの除菌スプレーを作り、こまめに拭き掃除を行っている。清掃業者による掃除も行われ、綺麗で清潔に保たれている。温度・湿度にも気を配り、利用者が過ごしやすい空間となっている。	温度・湿度の管理を、職員の感覚だけに頼らず定期的に測定し、記録に残すようにしてみてはどうか。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーの置き場所を3ヶ所にし、その時々に合わせ、独り、気の合った利用者同士で過ごせる様、努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス、布団等、本人使用の物を準備して頂く様にお願いをする。 子ども、夫の写真、趣味の物を飾ったりするが、日中、居室で過ごされる方は少ない。	利用者は日中は共用フロアにて過ごされる事が多いが、居室には以前使用していた物等を置き、家族の写真を飾るなど、本人の要望を聞いて、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の貼紙や居室入口には表札をつける。カレンダー等見やすくし、毎朝一緒に日付けを確認する。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームともさん家

作成日：平成30年3月16日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かつたり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	項目外	開設後、年数が経っている。 ケアが慢性化しているのではないか。	現在の個別ケアを更に充実させ、目で見える化、データー化する。 前向きな楽しみ事を増やす。	個別ケアの見直しをし、フロア内に貼り出し意欲へと繋げる。 回数、成果等データー化する。 職員の意識の再確認再統一をする。 (職員の自己満足にならないケア) 身体介助、パーソンセンタードケアの勉強会をする	1ヶ月
2	52	温度、湿度の管理が感覚だけに頼っている。	記録用紙作成し記入する。 温度、湿度が入居者にどう関わってくるのかを知る。	記録用紙作成、日々の日誌へ運動させる。 温度、湿度を確認する理由を勉強する。 (日中カンファ時に勉強会もする)	0.5ヶ月
3	35	安全な場所への避難誘導の訓練が出来ていない。 (非常階段が危ない為、出入り口迄の避難)	避難場所までの避難をする。 (年2回の内1回は実施)	次回5月予定の避難訓練は正規の避難場所への避難とする。(入居者代役も考える)	3ヶ月
4					
5					

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171400348	
法人名	医療法人社団もりもと	
事業所名	GHともさん家(いくさん家)	
所在地	東伯郡琴浦町逢東1213-1	
自己評価作成日	平成29年12月12日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先
----------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 未来
所在地	鳥取県倉吉市東仲町2571番地
訪問調査日	平成29年12月21日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医院であり、急変時等の対応が迅速可能で利用者、家族の方に安心して暮らして頂いている。  
基本理念である「自分らしさ、穏やかな暮らし、尊厳」を大切にしながら日々取り組んでいる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

別紙参照

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外 部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念、方針を掲示し、毎朝、職員、入居者で唱和し共有し合い日々の意識を高めている。		
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の祭りや催し物等参加し交流している。また、法人内の文化祭を開催し、地域の方との交流も図っている。		
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内の文化祭で作品を展示し鑑賞して頂いている。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の様子やサービス状況、行事、研修報告等を行い、適切な意見や要望を聞きサービスに活かしている。		
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の中で色々情報を頂いている。		
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約書に「身体の不拘束」を明記し、家族の方に理解して頂いている。また、職員一人ひとりが具体的な行為を理解し、日々身体拘束のないケアに取り組んでいる。やむを得えない状況の時には家族の了解を得ている。		
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待が起こらないよう日々職員一人ひとりが自覚を持ってケアにあたるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会は設けていないが、個々に時間を見つけて学習するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度、不安や疑問があれば話し合い、分かりやすく説明をし理解、納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させてている	1回／年家族アンケートを実施して、家族の要望や不満等を把握し、それを踏まえて今後の運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させてている	日々の申し送り時、カンファレンス、個人面談で意見を聞く。 日常的にも話し易い環境を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的に声かけを行い、必要があれば個人面談を行うなどし、職場環境条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修への参加を積極的に促し、職員を育てる努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互研修の参加 町GH連絡会への参加 GHネットワーク作り研修に参加し、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本1対1で本人と職員の関係を築き、本人の要望や不安に思っている事等思いを受け止めて安心出来る様努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に施設内の見学を実施している。来訪時には話し易い環境を作り、要望や困っている事等に耳を傾けながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスとの連携を含め、本人と家族の要望を聞き必要な支援に取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「お世話」にならない様に出来る事はして頂いている。また、共同作業や合同レクリエーション等喜怒哀楽を共に感じられる様な環境作りをしている。 役に立てる満足感を得て頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月広報紙「ゆとり」を発行し、家族の方にも生活の様子を見て頂いている。来訪時は家族との時間を居室で過ごして頂いたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店に出掛けたりしている。また、馴染みの方の来訪もあり一緒に過ごして頂いたりしている。 本人の希望に添って墓参りや自宅に帰宅する等して頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握して、日々穏やかに過ごせる様に席の変更をしたりしている。職員が間に入り、お互いが納得して頂けるよう支援している。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された利用者の方で、夕食をグループホームで食べられる方も有る。また、家族の方がボランティアで毎月お茶会を開催して下さる。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23 (9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のコミュニケーションの中で、やりたい事や、やってみたい事、食べたいもの等聞き出す努力をしている。		
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人、介護支援専門員からの聞き取りや情報共有に努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い、体調管理を行っている。また、職員同志が水分、食事量、表情等に気を付け把握し共有出来るように努めている。夜勤者との申し送りや、申し送りノートの活用をしている。		
26 (10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族を含めてモニタリングを実施し、要望や課題について話し合い介護計画を作成している。		
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実践の個人記録、また、申し送り事項があれば申し送りノートを活用し情報共有出来る様にしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他サービスと連携をとり、馴染みの方との交流をしたり、家族や知人の方の来訪、宿泊等柔軟に対応している。		

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を發揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様支援はしているが、入居者全員ではないが本人の心身の力を發揮出来るよう心掛けている。		
30 (11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、又は、家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築いており、適切な医療を受けられるように支援している。		
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常で気づいた事や情報は迅速に看護師等に伝えて、確認、相談をしており、適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、病院関係者との情報交換や相談が出来るよう体制作りを行っている。		
33 (12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から主治医、家族で話し合いを持ち、今後の方針等決めている。 職員同志共有し合い支援に取り組んでいる。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には、マニュアルに添って行動している。		
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回／年の火災訓練の実施をし、火災時に備えている。また、地震、水害時にも避難場所を設定しているが、訓練は実施出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊厳を持ちながら、一人ひとりに合った声掛けをしている。又、周りが常に聴いていいると言う意識を一人ひとりが持ち気を付けるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寄り添いながらその人の要望を聞いたり思いを受け止めて、能力が発揮出来る環境作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合にせず、その人のペースで過ごせるよう日々努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な方には、朝の整容、衣類の選択を行ってもらっている。 また、白髪染め等の希望があれば職員と一緒に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その方に合った食事形態で提供している。 また、好まれない品に対しては、別の品を提供し食べて頂いている。 また、ご家族の方が季節の食材を提供して下さったりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは栄養士の方に管理して頂いている。 カロリーが不足している時には栄養剤を提供したり、おやつ等で補って頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施、また、最終仕上げを義歯を含め職員で行っている。		

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人その人の排泄パターンを把握し、時間誘導をしている。		
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時には牛乳を摂取して頂き、朝食路にはカスピ海ヨーグルトを提供している。又、飲み物を変えたり器を替えたりしながら水分摂取の工夫をしたい。また、センナ茶を服用して頂いている方もある。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を行っている。入浴拒否のある方には時間をずらしたり曜日を変えたりしながら入浴して頂いている。 本人希望の入浴は出来ていない。		
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の要望に添うようして頂いている。又、その人の体調を観察しながら休息する等、無理の無いよう支援している。 また、季節に合わせて冷暖房の管理をしている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的を把握し、服薬後の症状変化を継続管理し、変化があれば主治医に報告出来るよう努めている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までしてきた家事経験を活かし、洗濯たたみ、干し、買い物等役割を持って生活して頂いている。又、嗜好品の提供やレクレーションを行ったりドライブに出掛ける等の支援を行っている。		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に岡かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣、花見、ドライブ、散歩、墓参り等外の空気に触れ季節を感じて頂けるようにしている。又、家族と外泊外出等の支援をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の要望を受け、ご本人と共に出掛け購入し本人自ら支払う支援を行う。購入後は預かり金の管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば電話をして頂く。年賀状、暑中見舞いや友人宛てに書いて頂きやりとりを行う。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎にその季節に合った創作物をフロアに飾り季節感を感じて頂けるよう工夫している。又、日射しの強い時などはレースのカーテンをしたり席移動して頂き、居心地良く過ごして頂けるようしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置には気を配り、利用者間のコミュニケーションの間に入る等、同じ生活空間を心地良く過ごして頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用しておられた物等置かれたり、家族の写真、又、本人の要望を伺ったりしながら居心地の良い居室を心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすくする為にトイレは提灯をぶら下げたり、フロアには手すりを設けて出来る限り自立した生活が出来る様に工夫している。極力動線には障害物を置かないように注意している。		